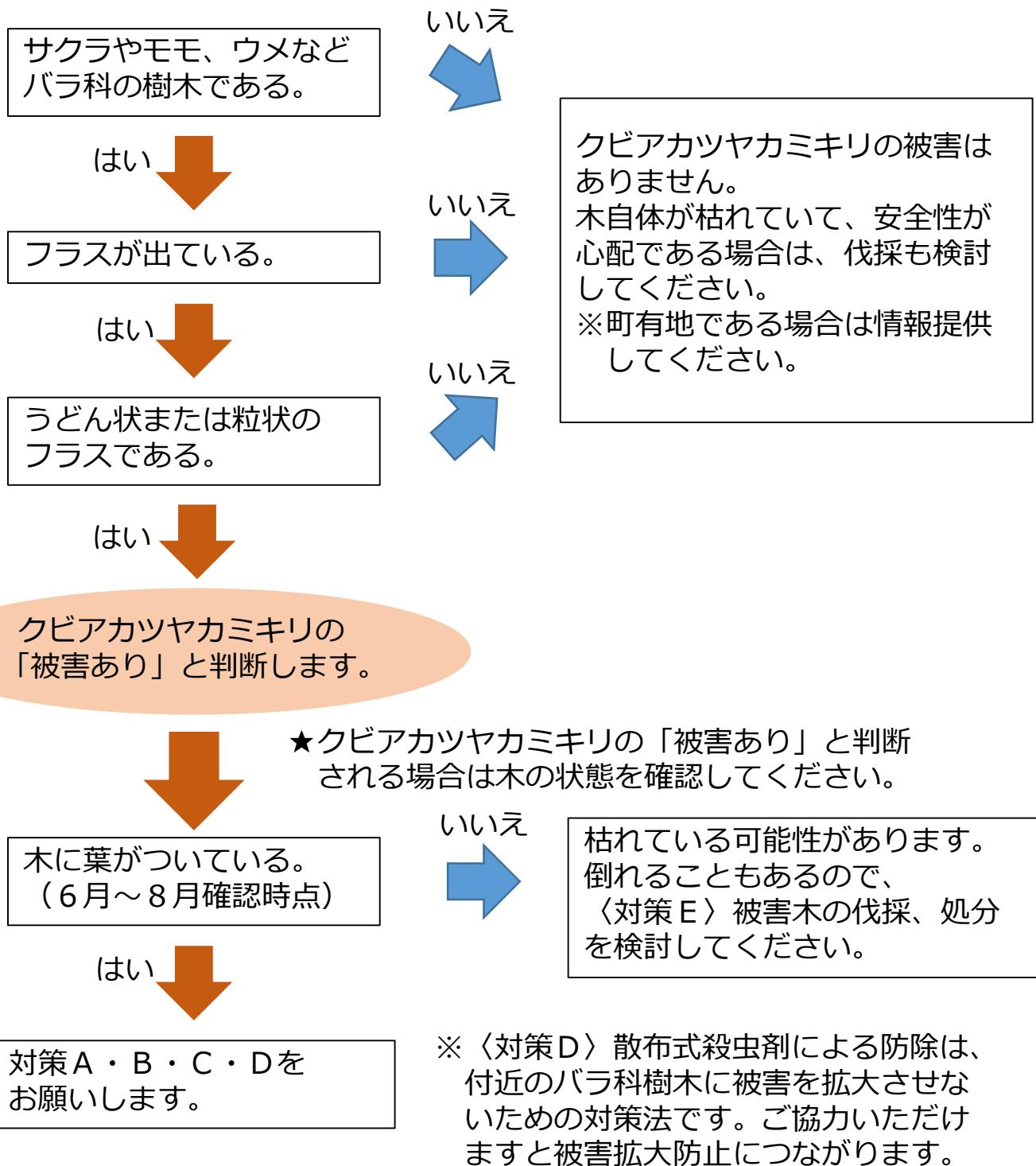


○確認・防除の手順



○注意事項

- 木の幹や付近に成虫を見つけたら、持ち帰らずその場で捕殺してください。
- ※特定外来生物であるクビアカツヤカミキリを人の手で移動させると罰せられることがあります。
- 脱出孔があったり、樹液が複数箇所から吹き出したりしていることもクビアカツヤカミキリの目印になります。

6. 成虫・フラスの確認方法

月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
成虫												
フラス												

【確認場所】

- ・サクラ、ウメ、モモ、スモモの高さ2.5m程度までの樹幹、枝、根元

【確認手順】

- 根元にフラスが積もっていないか
- 樹幹からにフラスが吹き出しているか
- （フラスがない場合でも）樹幹から樹液が噴き出しているか
- 脱出孔はないか
- 成虫が止まっているか
→ 成虫はその場ですぐに捕殺すること。
（生きたまま持ち運ぶことは法律で禁じられています！）



資料提供：公益財団法人吉野山保勝会

【確認事項】

- ・成虫、フラスの出ている場所の写真を撮る。
- ・フラスが出ている木、成虫がいた場所を地図上に記録する。
- ・可能な場合はフラスを採取する。



県、市町村の担当課まで情報提供してください。

○防除方法

〈対策A〉 スプレー式殺虫剤による防除(発生初期の防除)

被害の発生初期に、樹木内を食害する幼虫を駆除する方法です。

【時期】 3月末～10月末(フラスが排出される時期)

【用意するもの】 スプレー式殺虫剤・千枚通しや針金(とがついていて、ある程度長さがあるもの)

〈対策B〉 ネット巻による防除

成虫発生時期に、ネットを巻くことで、木の中にいた幼虫が成虫になって飛散するのを防ぐ。

【時期】 6月～8月頃(成虫の野外発生時期)

【用意するもの】 目合い4mm以下のネット・ガンタッカー・ひも・ホッチキス・結束バンド・U字ピン・ハンマー等

〈対策C〉 樹幹注入による防除(発生初期の防除)

樹木が根から水を吸い上げる力を利用して、薬液を樹幹内にいきわたらせ、幼虫を駆除する。

【時期】 4月下旬～9月末頃(新葉がついてから落葉するまで)

【用意するもの】 樹幹式殺虫剤・注入器(必要に応じて)・電動ドリル・メジャー・傷口癒合剤・ゴム手袋・ゴーグル・マスク

〈対策D〉 敷設式殺虫剤による防除

幹や根に殺虫剤を散布して、飛来した成虫や孵化直後の幼虫を駆除する。

【時期】 6月～8月頃(成虫の野外発生時期)

【用意するもの】 敷設式殺虫剤・噴霧器など薬剤を吹き付けることができるもの・ゴム手袋・ゴーグル・マスク・雨カッパなどの防護衣

〈対策E〉 被害木の伐採、処分

被害木を伐採し、粉碎あるいは焼却処分することで、樹木内部の幼虫を完全に駆除する。

【時期】 9月～翌年4月頃(成虫の脱出時期以外)

III. 防除対策

1. スプレー式殺虫剤による防除（発生初期の防除）

対策A

被害の発生初期に、樹木内を食害する幼虫を駆除します。

【用意するもの】

スプレー式殺虫剤、千枚通し、ブラシ、マイナスドライバー、針金

【手法】

① フラスの排出孔を探す

- ・フラスが排出されている枝や幹をブラシなどで掃除し、排出孔を探す。

② 孔内のフラスをかきだす

- ・千枚通しなどを使ってフラスをかきだす。
- ・可能であれば、マイナスドライバー等で孔を広げて幼虫を取り出すか、針金で幼虫を刺殺する。

③ 殺虫剤を注入する

- ・殺虫剤が孔からあふれ出るまで注入する。

※使用できる薬剤については、登録農薬リスト（p.14）を参照

④ 経過観察

- ・おおむね 1 週間後に、再びフラスが出ていないか確認する。
- ・フラスがでている場合は①～③の作業を繰り返し行う。



※殺虫剤ごとに、使用回数や使用方法が定められていますので、ラベルをよく読んで使用しましょう。

2. ネット巻きによる防除

対策B

成虫発生時期に、ネットを巻いて成虫が飛散するのを防ぎます。
※あくまで飛散防止目的です。防除は別の方で行ってください。

【用意するもの】

目合い4mm以下のネット、ガンタッカー、ひも、ホッチキス、結束バンド、ペグ、ハンマー等

【手法】

① ネットを樹幹に巻き固定する

- ・ネットを巻き付けて、ガンタッカーで上部を固定し、ひもでしばる。
- ・幹とネットの間は十分に余裕をもたせるように巻き付ける。

② ネットの開口部をとじる

- ・ホッチキス、結束バンド等で隙間ができないように閉じる。

③ ネット下部をペグ等で地面に固定する

④ 経過観察

- ・定期的に見回りを行い、ネット内で成虫が羽化していたら捕殺する。
- ・フラスが大量に出ているようであれば、ネットをあけてスプレー式殺虫剤などを注入し、幼虫を駆除する。



上部、下部に隙間を作らない



こまめな見回りと捕殺が必要

3. 樹幹注入式殺虫剤による防除

対策C

樹木が根から水を吸い上げる力を利用して、薬液を樹幹内にいきわたらせ、幼虫を駆除します。

【時期】

- ・通年（薬剤によっては新葉展開後～落葉期）

【用意するもの】

樹幹式殺虫剤、注入器（必要に応じて）、電動ドリル、メジャー、傷口癒合剤、ゴム手袋、ゴーグル、マスク

【手法】

- ① 樹体の地際部に穴を開け、木の太さに応じた薬液量を注入する。
- ② 殺虫剤が浸透したことを確認して、注入孔を傷口癒合剤でふさぐ。

※被害が激しい木や、樹勢が衰えた（葉が少ない）木では効果が低いので、できるだけ被害の初期に使う。



樹幹注入の様子

4. 敷布式殺虫剤による防除

対策D

幹や枝に殺虫剤を散布して、飛来した成虫や孵化直後の幼虫を駆除します。

【時期】

- ・6月～8月（成虫の野外発生時期）に複数回

【用意するもの】

散布式殺虫剤、噴霧器、バケツ、ゴム手袋、ゴーグル、マスク、雨カッパなど防護衣

【手法】

- ① 樹皮の割目や幹の窪みを含む木全体に薬剤を散布する。

※使用できる薬剤については、関係機関に相談する。

5. 被害木の伐採、処分

対策 E

被害木を伐採し、破碎あるいは焼却処分することで、樹木内部の幼虫を完全に駆除します。

【時期】

- ・9月～翌年4月（成虫の脱出時期以外）

【手法】

① 伐採

- ・被害木を伐採する。可能であれば切り株も堀り取る。
- ・切り株を残す場合は2年程度ネット等で覆い、切り株が完全に腐るまで続ける。
ネット内に成虫を見つけたら捕殺する。

② 処分

- ・市町村の清掃工場で焼却可能な場合は、ネット又はビニールシートで二重に覆って飛散防止措置をした上で運搬し、運搬後は直ちに焼却処分を行う。
- ・焼却ができない場合は、現地でチッパーにより破碎、又は近隣のチップ工場で破碎する。
- ・チップは10mm以下とすること。

※直ちに焼却又破碎を行うことが困難な場合は、伐採木を防風ネット又はビニールシートで二重に覆い、焼却・粉碎まで成虫が飛散するのを防ぐ。

※特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律施行規則第二条第十五号の規定に基づく環境大臣が定める動物及び運搬に係る要件を確認した上で適切な方法で実施すること。



運搬の際は枝をネットで二重に覆う



残った切り株もネットで覆う